

# 市民の中に根付く有機の芽

## オーガニックファーマーズ 朝市村

日本の三大都市のひとつ名古屋。その中心にある「栄」で10年前に有機専門の朝市が生まれました。毎週土曜日に開催されているこの朝市は、スタート前から多くの市民が集まってのおの目的の生産者の前に列をつくり、熱気に溢れています。今回は、昨年で10周年を迎えた「オーガニックファーマーズ朝市村」の取り組みを紹介します。

地下鉄栄駅から徒歩一分、都市型公園「オアシス21」の一角で開催されているオーガニックファーマーズ朝市村は、「土曜の朝に賑わいを」との公園からの依頼を受けて2004年にスタートしました。地下という立地もあって、地下鉄駅からのアクセスもよく、天候に左右さ

れずに開催されています。

8時30分、合図の鐘が鳴ると一斉に販売がスタート。毎週約1000人の市民が来場し、11時30分の終了まで人が途切れることはありません。各出店ブースには愛知県を中心とした地場産の有機農業で育てた旬の野菜が所狭しと並べられ、農家とお客さんが会話を楽しみながらやりとりをしている姿が印象的です。

両手に大きなエコバッグを持ったご夫婦に話を聞きました。「私たちは毎週通って、1週間分の野菜はほとんどここで購入しています。初めて来たときに買ったトマトがすごくおいしくて、それからこのファンになりました。スーパーと違って旬の野菜しか並びませんが、逆にここに来ることで野菜の旬を教わっています」

市民からは、有機というブランドだけではなく「おいしい」「新鮮」「保

ちがいい」といった品質も高く評価されているようです。

## 朝市村の概要

現在、70軒の生産者が登録しており、毎回約30軒が出店しています。朝市村では、①有機農業※（自然農法）で育てた農産物と加工品のみを生産者本人が販売すること、②生産者同士が切磋琢磨して品質・技術向上に努めること、③有機の新規就農希望者を育てることなどを基本としています。

現在は、原則として有機で新規就農（または有機に転換）した人のみが登録することができ、販路の確保が難しい新規就農者を支援する側面も持っています。また、就農希望者からの相談を受けたり、国の「青年就農給付金制度」の受け入れ窓口となつて申請のサポートをするなど、「有機農業で新規就農したい！」と

## ある日の朝市村の様子

小雪のちらつく天候にもかかわらず、多くの市民の熱気に溢れていました



※野菜は無農薬・無化学肥料ですが、米は除草剤1回まで、果樹は低農薬を認めています（必ずその旨を表示）



オーガニックファーマーズ朝市村の生産者・ボランティア・消費者の皆さんと

いう熱意ある若者達の受け皿としても重要な役割を担っています。

生産者の方は「朝市村では消費者の反応がダイレクトに感じられて、とてもやりがいを感じています。食べ方を消費者から教わることもあり、それが別の消費者との話題作り

につながることもあります。また、若い同年代の仲間と情報や技術の交流をする中で、とても刺激を受けています」と言います。

## 10周年への道のり

2004年に月2回で始まったこの朝市村のこれまでの道のりは決して平坦ではなかったそうです。

村長（代表者）の吉野隆子さんは「10数軒の生産者で始めましたが、当初はお客さまが少なく、半年ほどした頃には出店が4軒ということも。何とか踏ん張って続けた結果、口コミや新聞などでも紹介されるようになり、徐々にお客さまも増えてきました」といいます。

また「月2回の開催では、イベントではない。日常のものとして市民の食卓を担う市にしたい」という強い願いから、2009年

6月より毎週開催に移行しました。生産者からは「毎週開催しても売上げが分散してしまうだけではないか」という声もあったようですが、やってみると逆に売り上げは倍増し「相場に左右されない有機農業は成長産業だ」と生産者が話すようになったそうです。

## 消費者ボランティアの力

朝市村がこれまで成長してきた裏には、運営者や生産者の努力の他に、消費者ボランティアの存在が欠かせません。

朝市村の運営には、出店ブースの設置や片付け、朝市村新聞の配布や手の足りない生産者の手伝い、リサイクル紙袋の受け入れなど、生産者の手だけでは回らないことがあります。それらをサポートしてくれるボランティアの皆さんは、小学生から70歳代まで幅広い年齢層の人たち約20名で、お客さんとして通う中で朝市村の活動に共感し、無償でお手伝いをしてられています。生産者とのつながりを深められることにやりがいを感じたり、小中学生にとっては、社会に触れる貴重な機会ともなっているそうです。

## 今後の取り組み

「急な発展は望みません。常連さんを大切にしつつ、生産と消費のバランスをとりながら今後も着実に成長していきたいです。また、生産物を余すことなく生かすために、今年からは加工にも取り組みたいと思っています」と村長の吉野さんは言います。

雨の日も雪の日も台風でも休まず毎週続け、昨年10月で10周年を迎えたオーガニックファーマーズ朝市村は、扱う農産物の品質もさることながら、生産者と消費者が直接顔を合わせる中でお互いの信頼関係を築きながら、市民の日常に着実に根付いています。

（技術普及課 蟹江 秀則）



出店者情報など、詳しくはオーガニックファーマーズ朝市村HPへ <http://www.asaichimura.com/> 毎週土曜日の朝市村のほかにも、名古屋駅前「タぐれ市」（毎週火曜日 15:30～18:30）、名古屋市緑区の南生協病院内で「みどりオーガニックマーケット」（毎週木曜日 10:00～13:00）も開催中。